

伝えよう、三計と半九の教え

そっけん

息軒だより



令和元年度 16号 (10・11月号)

発行 宮崎市安井息軒記念館
管理 NPO 法人安井息軒顕彰会
理事長 齋藤義輝 館長 中村富英
〒889 - 1605
宮崎県宮崎市清武町加納甲 3378 - 1
TEL0985-84-0234 Fax0985-84-2634

e-mail:sokken.yasui@pic.bbq.jp

<http://yasuisokken.qcweb.jp/>

一日の計は朝(あした)にあり
一年の計は春にあり
一生の計は少壮の時にあり



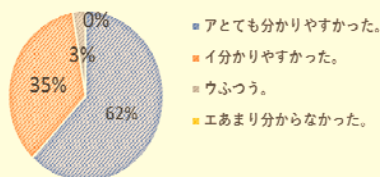
読み取ると、記念館 HP
がご覧になれます。

息軒先生の教え方に迫ってみました。

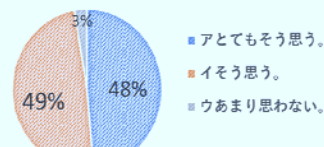
日本一の大儒学者といわれる息軒先生は、弟子たちにどんな教え方をしていたのだろう。という疑問をずっともっていました。その疑問を解く一つの手がかりがありました。記念館講座で宮崎大学准教授 山元宣宏先生の「安井息軒の『論語集説』を読む」の中で論語の一文「子曰。温而知新可以為師矣。」四字熟語として知られている温故知新はここからきていますが、これを息軒は解説しています。分かりやすく言うと、暗記ばかりしては得るものはない。その知識を活用できる人が本当の先生になれる。まさに今言われている、活用能力を伸ばす授業が大事であると、息軒先生は約 200 年前に言われています。

6月、宮崎国際大学の教育学部、宮崎学園短期大学の学生の授業を受け持つ機会がありましたので、この考えに迫る授業をやってみました。「安井息軒について」の授業でしたが、進め方は紙面の関係で割愛させていただきます。授業後のアンケート結果を紹介いたします。

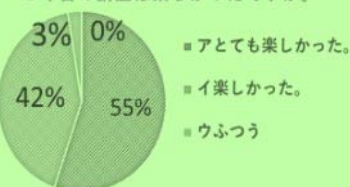
1 今日の講座は分かりやすかったですか。



2 安井息軒について、もっと知りたいと思いませんか。



3 今日の講座は楽しかったですか。



記述欄には

- 講義の導入でロールプレイがあり、いつの間にか惹きつけられていました。子ども達を惹きつける術を身につけていきたい。
- 息軒先生は昔の人ではありますが、現代の教師に求められるような授業をされていたことにとっても驚きました。など、たくさん書いてくれました。皆さんが息軒先生について楽しく学んでくれたのではないかと思います。(文責 中村)

記念館講座も好評です。(8/10 町先生、9/7 山元先生)

幕末における息軒とその弟子を含めた「知的ネットワーク」の様相について町泉寿郎先生(二松學舎大学教授)から講演いただきました。山元宣宏先生(宮崎大学准教授)からは「書」の視点から息軒先生の書の位置づけや歴史的意義について講演いただきました。



9月23日、息軒先生の命日に記念講演会が行われました。

中国から湖南大学岳麓書院 特聘副教授の青山大介先生をお招きしました。中国の倫理観のひとつに「忠孝」という概念があります。領主や親を敬うという考え方は日本にも広く定着してきましたが、明治6年(1873)にキリスト教禁教の解除が発令されるという情勢の中で書かれたのが『弁妄』(安井息軒著)です。神(宗教)や天理(自然主義)を否定し、歴史主義的倫理学の観点からキリスト教を批判した著作です。この思想が三計塾の弟子で「教育勅語」の起草者である井上毅に継承されますが、息軒と井上の思想観念の共通性を探った非常に内容の深い講演会となりました。



夏休み



子どもたちのにぎわい



夏こそ、記念館☆彡 いいね

息軒団に、子ども息軒塾。川口市文化交流事業に清武小息軒クラブ。宿題や調べ学習に来てくれた子どもたちもたくさんいて、活気あふれた夏休みの記念館でした^^ 子どもたちがいるだけで、こんなに明るくなるんですね。記念館では子どもたちの学習等のサポートをこれからも続けていきます。私たち職員は、いつでもみなさんをお待ちしています。



8月 安井息軒顕彰・川口市文化交流事業

9月 佐土原南松小路いきいきサロン



団体の皆様、ご来館ありがとうございました。



安井息軒記念館講座④



- 11月16日(土) 10:00~11:45
- 講師：諸岩 則俊 氏
(安井息軒顕彰会)
- 演題：『読書余適』の世界 後編
～松島から江戸まで～
- 会場：安井息軒記念館 研修室



安井息軒記念館講座⑤



- 12月7日(土) 10:00~11:45
- 講師：岡本 武憲 氏
(元 日南市教委生涯学習課長)
- 演題：飲肥の町並み保存とまちづくり
- 会場：安井息軒記念館 研修室

今後のイベント案内

※お申し込み・お問い合わせはお気軽に安井息軒記念館までご連絡ください。電話・ファックス・メールでも構いません。



清武町史セミナー(全4回)

- ①11月23日(土) ②12月21日(土)
- ③1月18日(土) ④2月22日(土)
- ※いずれも10:00~11:45
- 講師：松浦 祥雄 氏
(『清武町史』執筆者)
- 会場：安井息軒記念館 研修室



安井息軒顕彰かるた大会

「息軒かるた」を使ったかるた大会を実施します。

- 予選：12月14日(土)
- 決勝：2月11日(火・祝)
- ※決勝戦の日は「梅まつり」も開催!
- 対象：小学生



もっと知りたい！息軒噺（ばなし）

志半ば伝馬町の牢に散った 悲運の志士 北有馬太郎

【その3】

後ろ髪をひかれる思いで久留米へ帰ってきた貞太郎は、その後、真木和泉守と暫く行動を共にします。真木の尊王思想に傾倒しつつも、胸中には志半ばで断念せざるをえなかった学問への抑えがたい思いがありました。弘化4年、母方の叔父八木天山を大坂に訪ねます。江戸遊学の思いを理解者である天山に伝えたかったのでしょうか。ところが、天山が急な病に倒れ、やむなく叔父を連れて再び久留米へと戻るのです。思うようにいかない己の人生。しばらく酒浸りの日々が続きます。

嘉永元(1848)年、父寛平と上京した貞太郎は、弟重義(中村主計^{かずえ})と会い、尊王思想の強い田中河内介と深い関わりを持つなかで、弟共々義兄弟の契りを結びます。ここに出てきた、真木和泉守、中村主計、田中河内介の3人は、文久2年の「寺田屋の変」で行動を共にし、主計と河内介は薩摩へ護送中の船上で斬殺されます。

嘉永3(1850)年3月末、江戸にやってきた貞太郎は、翌日には息軒を訪ね、その後、三計塾門下の多く人物と交流していきます。後年、貞太郎の人生において、浅からぬ因縁を持つことになる清河八郎が江戸に上ってきたのはこの頃のことです。

嘉永7(1854)年、欧米列強の圧力に危機感を覚え、抑えきれない憂国の思いを抱き、貞太郎は閣老松平伊賀守に宛てて建言書を提出します。それは、過激な攘夷論者の発言とは全く内容を異にした理にかなった見識の深さが伺えるものでした。その年、奥富村(埼玉県)で開塾した貞太郎は、翌年、息軒の長女須磨子と結婚します。息軒は自分の娘を嫁がせるほどに貞太郎の才能と人間性を高く評価していたのです。とはいえ、塾で生計を立てていくのは厳しく、それを見かねた息軒は士官先を探しては、貞太郎に勧めます。しかし、貞太郎は、様々な理由を付けて断ります。この頃には、もしかしたら、国事に奔走し草本の志士として生きていく覚悟が芽生えていたのかもしれませんが。このあと貞太郎は尊王攘夷活動に突き進んでいくことになります。(文責 長野)



curator Colum



偉人を「顕彰する」ということ

～海軍医 高木兼寛先生 生誕 170 周年記念事業に参加して～

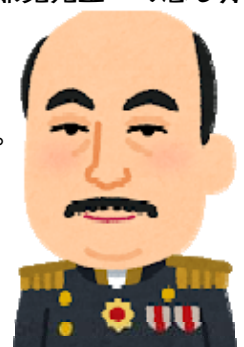
学芸員 小山のつぶやき
コーナーです。

※curator(キュレーター)
「学芸員」の英訳

9月7日(土)、高岡地区農村環境改善センターで高木兼寛先生の
生誕170周年記念講演会が行われました。清武に「安井息軒顕彰会」がある

ように、高岡にも「高木兼寛顕彰会」という団体があります。この顕彰会が中心となって、高岡地区の学校や諸団体、地域住民をうまく取り込みながら、兼寛先生の創設した東京慈恵会医科大学や高木家のご子孫の方、在京宮崎市高岡郷人会とも手を取り合って、今回の事業が執り行われました。私も高岡地区住民として参加しましたが、会場に入った瞬間に感じたのが「会場の一体感」でした。主催側と参加者との和やかで明るい雰囲気。誰にでも「どうぞ入って!」というようなウェルカムな姿勢。それぞれの兼寛先生への感じ方を認める寛容さ。何より、自然体でまったく気取らずに兼寛先生を大切にする顕彰会のあり方が、会場の一体感を作り上げていると、私は思いました。

会場は満席で、自主的に参加した高岡地区住民も本当に多く、すさまじい熱気でした。改めて高岡の「地域力」に感動したとともに、偉人を顕彰することの意味を考えさせられました。表彰して終わりといった一時的なものではなく、顕彰は市民レベルで広く継続的に「ともに学ぶ」スタンスで普及していく活動です。来年は没後100年、再来年は成医会講習所創設140年と、ますます兼寛先生への思いは熱くなっています。



●最終回は落款作りと絵手紙☆今年も楽しかったね。

8月20日(火)は子ども息軒塾の最終回でした。消しゴムのようなものに文字を彫って、落款(らっかん:ハンコのこと)を作りました。さらに、絵手紙を描いて仕上げに落款をポン!心のこもった温かい絵手紙ができ、子どもたちも大満足の様子でした。本年度は台風の影響で3回の実施となりましたが、毎回元気よく記念館に来て活動を楽しんでくれました。来年もぜひ、参加してくださいね♪



みんな、気持ち
がこもって
るね。

●夏休みのがんばりを披露

～自由作品・書道展、スタート～



安井息軒顕彰会では、息軒先生に関係する自由作品や書道を毎年募集し、本年度は9月21日(土)～11月10日(日)まで展示を行っています。幼稚園・保育園の子どもたちから高校生まで、のびやかで躍動的な書道作品がたくさん集まり、記念館に賑わいをもたらしています。また、自由研究は息軒先生をさまざまな視点から、「子どもらしい」発想で読みやすくまとめていました。色を付けたり、イラストを加えたり、表にまとめたり、「読んでもらう」ための工夫が見られました。これらの作品の表彰式は10月6日(土)に行います。子どもたちの力作を、ぜひご覧ください。



●文栄寺跡の安井家墓地に案内板を設置しました。

宮崎南ロータリークラブより案内板設置のお話があり、昨年の8月から宮崎市が管理している安井家墓地にある34基の墓について、顕彰会会員の方々が、墓碑銘や刻まれた法名、没年月日等をすべて調査し、関係者と協議を行い、今まで未知だった安井家当主の墓を発見することができました。その後、顕彰会が説明板の案作成、宮崎市文化財課が監修を行って今年8月に同俱樂部が設置しました。8月26日に、同俱樂部事務所で市から感謝状が贈呈されました。



会員募集

NPO 法人 安井息軒顕彰会では令和元年度の会員を募集しております。

年会費

- 一般会員 2,000円
- 賛助会員 1,000円
- 学生会員 500円
- 団体会員 5,000円



各種お問い合わせ、会員の近況報告、情報提供などがございましたら事務局宛ご連絡ください。

NPO 法人 安井息軒顕彰会

連絡先 宮崎市安井息軒記念館
〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1
FAX 0985-71-3005
携帯 080-8589-0569 (安井息軒顕彰会 黒木)



安井息軒記念館

管理: NPO 法人 安井息軒顕彰会
理事長 齋藤 義輝
事務局長 黒木 幸英

記念館職員

館長 中村 富英
学芸員 小山 幸子
職員 長野 智愛子
職員 日高 弘子